

美 就 智

第三十九号

福岡大学学術文化部会書道部

第三十九号「荒鷲」 発刊にあたって

この度、我が部の機関誌であります「荒鷲」が発刊できますことは、私達部員にとりまして誠に喜ばしいことです。

書道部は、昭和三十五年創部以来、目覚ましい発展を遂げ、現在に至っています。そしてこれから先は、諸先輩方の築き上げてこられた良き伝統に、時代に即した要素を新しく加え、新しい伝統を作ると共に、更なる発展を目指すことが、我々現役部員の使命であると、考えております。

最後になりましたが、「荒鷲」三十九号発刊に際し、多大なる御尽力を賜りました諸先輩方、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

第三十八代 幹事 山根 芳子

第三十八代 書道部基本方針

我々書道部は、二十七年間先輩方が築いてこられた部の存続を念頭に置き、これからこの部の発展の基礎を築いて行く。その為に部員の個性を生かし、部員同志が切磋琢磨し部を創り上げて行く。更に対外的アピールを行い一般の方々にも書の良さを知ってもらおう。

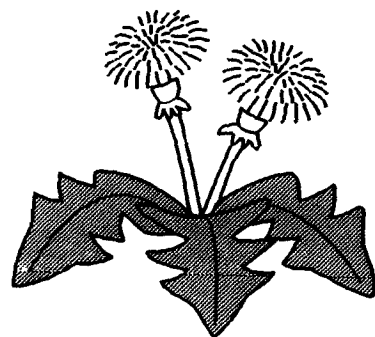
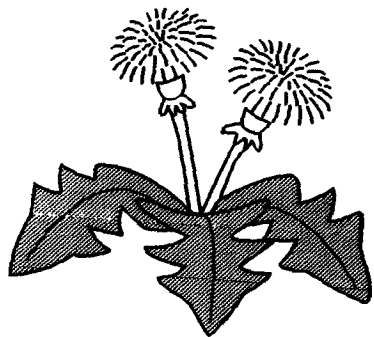
目次

・発刊にあたって	1
・第三十八代基本方針	1
・巻頭詩	3
・福岡大学書道部展『光陰の彩』展示作品	5
・特別寄稿	19
「書道部に何を期待するか」	部長 青木文夫…20
「これから求められる書について」	講師 大原蒼龍…20
「創部当時の気概に還って」	書心会会長 柴田一夫…21
「雑感：書」	昭和五十八年度卒 満生憲親…22
「学生に訴える」	学術文化部会常任幹事長 中村諭…23
「福岡大学書道部への思い」	運営委員長 久原琢水…23
・部員寄稿	25
「私のOFFの日」	26
「このごろの日本について思うこと」	29
「人生〇〇の日」	34
「結婚」	39
「自由投稿」	43

・年間行事	45
「追い出しコンパ」	46
「春季合宿 テーマ『前進』」	46
「新入生歓迎会」	47
「夏季合宿 テーマ『孜孜』」	48
「福岡大学書道部展『光陰の彩』」	49
「福岡大学学術文化部会書道部規約」	52
「福岡大学書道部書心会規約」	52
「部員名簿」	54
「書心会会員名簿」	55
「平成十年度書道部及び書心会役員名簿」	70
・編集後記	73

巻頭詩

僕らはきつとたんぼぼのようで
いつか綿帽子になって
風に乗ることに
覚悟を決めていた
大丈夫だろ どんなところでも
ちゃんと根付いてるだろ
黄色いアンテナ広げたら
教えておくれよ どこに着いたか
榎原敬之「Such a Lovely Place」より一部抜粋





部長
青木
文夫



書心会会長
柴田
一夫



講師
大原
蒼龍



福岡大学書道部展
「光陰の彩」 展示作品

一回生 三好 嵐舟(幸弘)

邊表細成性身何 朝容靡向
如若革悔細致委得後妙 駭空者
值何心試輕物 亦物輕獲 其年平其也

一回生 槻木 神海(和孝)

齋習不厭百早讀
希門新床十嘴餘

一回生 川原 青海(敦志)

分醉之 更攻城 堅戰詳 若涌泉 咸年諧 竟和魂 面禱歸 死還

一回生 龜山 芳蘭 (知美)

柳暗百花明春深五鳳城鴉
啼曉 官井輕籠絳方朔金
門侍 玳瑁玉 琴邊仍聞
遠方士東海方蓬瀛

一回生 川副 葵香 (輝美)

芥子園畫傳
畫林兼不
諸之片新
者不
所企謂
為
皇京多詔

一回生 松下 翔雲 (健太郎)

夫人姓五字敬訓清河人也
蓋中散大夫之幼女陳郡府
君之季妹夫人資合章之琳
氣康懷敬奇風芬芳特
出英華秀生婉問河洲
鍾千里年十有七而

一回生 草野 起雲 (心也)

心也
草野起雲
一回生

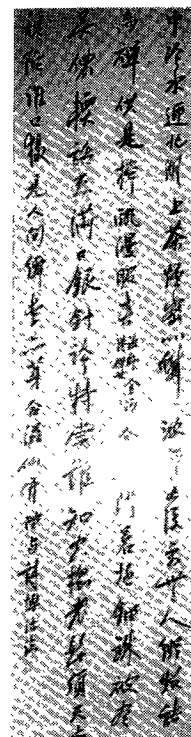
一回生 木下 崇

一回生
木下崇

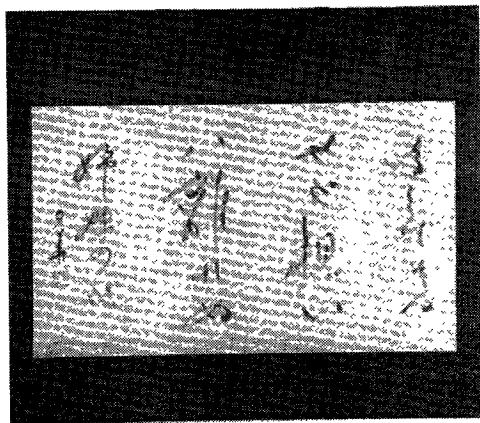
一回生 太田 真文

一回生
太田真文

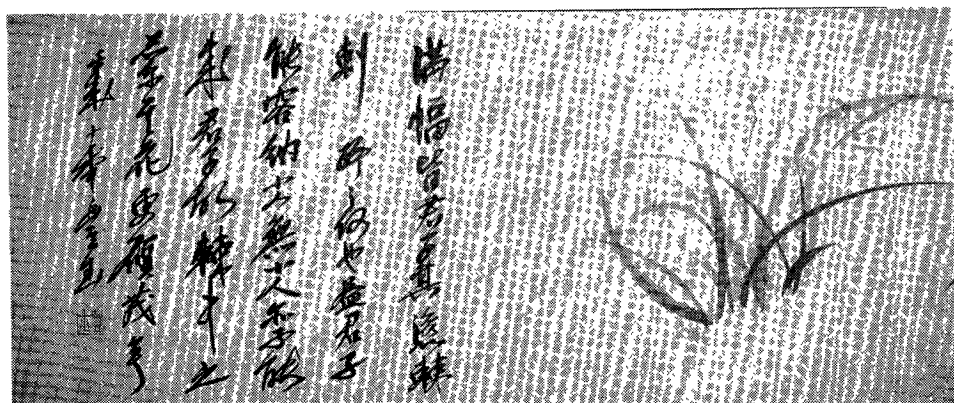
三回生 石橋 博治（幸恵）



三回生 萩原 夕華（裕子）



三回生 大場 豊玉（智子）



四回生 過能 乱馬 (友和)

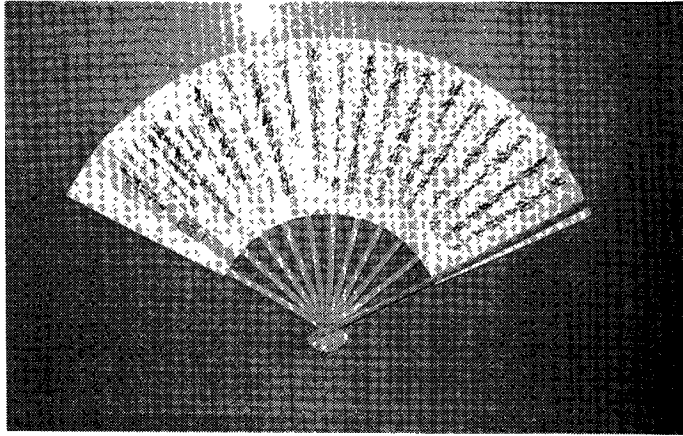
我結天結若西園善樂明別肺肝極極着花去
北到莫若若生及因中持乘運是是是是是
臨正部玩異才真意公換生志極極極并務矣

四回生 進藤 翠華 (久美子)

古歌有於海下海月其華者中山新之氣源之先
存身前舞之活身實家喜喜節之春波
我這春波 華占之美人 陽金海甲子

四回生 中島 娟柳 (沙織)

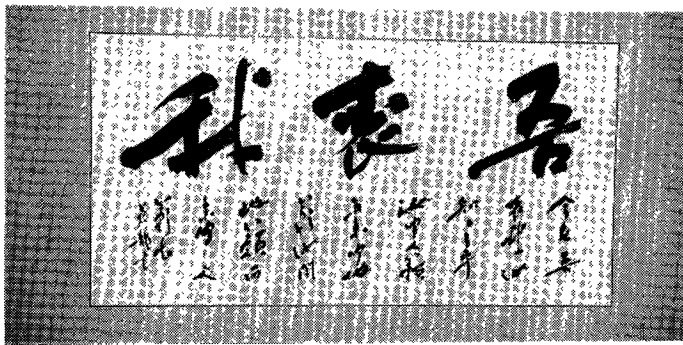
夫天下者生後生
此者無功此之謂
不行所以生後生
官尼位其速愛隨
出既及通文障其
餘風能文前之先
才夫公博潮日月
河前備備公概
才之生則茶之役
功身公氏矣通而
詳備推後及起
降年之重師存祖
行之神備者推後
故譽於此志未
言海神神神神



名譽講師

赤木

石掃

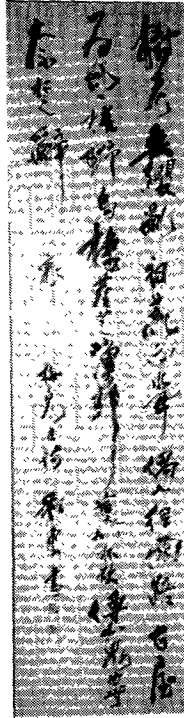


講師

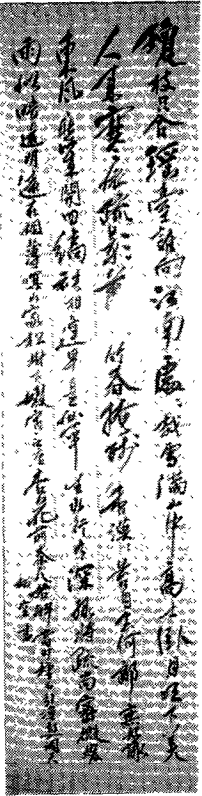
大原

蒼龍

昭和四十三年度卒 徳久 朔雲（政機）



昭和四十三年度卒 平井 栖空（晴彦）

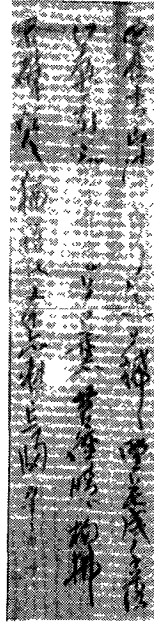


昭和四十三年度卒 原 天蓋（博之）



東照宮開國編註
 雨以晴通明遠在祖傳嘆息松樹之嫩字
 在光前奈人命研書日時
 深孫持節南宮殿
 如

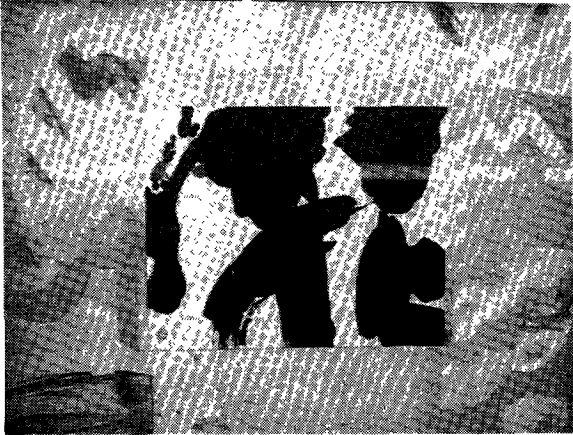
昭和四十三年度卒 高橋 雅光(幸代)



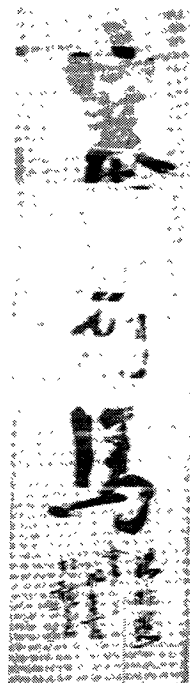
昭和四十四年度卒 前崎 鼎之(恒春)



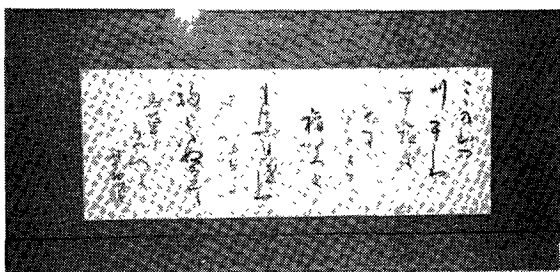
昭和五十一年度卒 荒尾 記史朗



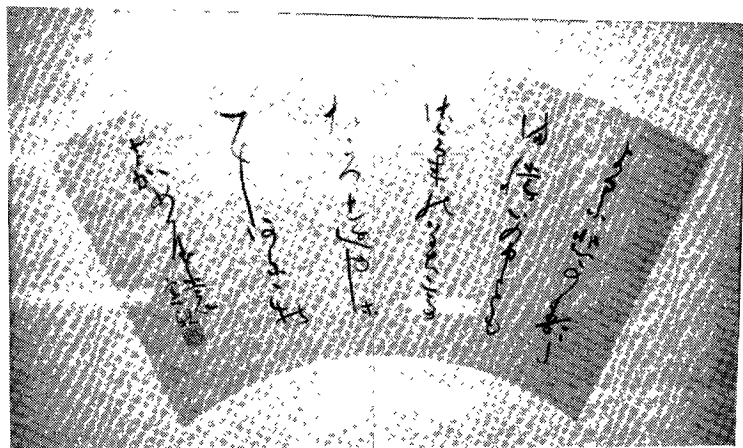
昭和五十五年度卒 桜井 松龍(典)



昭和五十六年度卒 小柳 英子



昭和五十八年度卒 満生 憲親

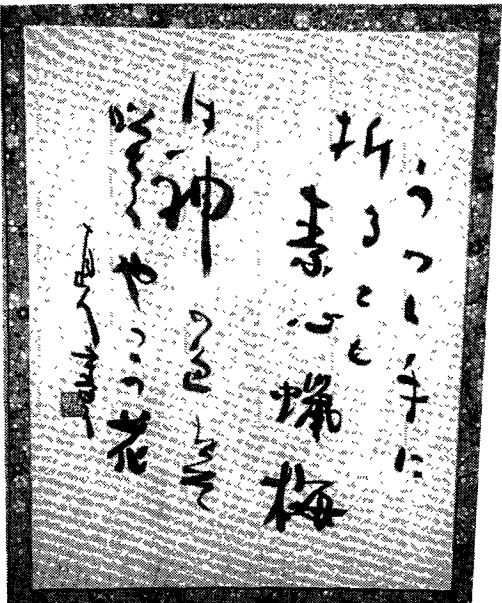


昭和五十八年度卒 坪矢 後牛（一義）



匡欲喪軀
戊寅八月
後牛對

昭和五十八年度卒 松本 清鵬（直人）

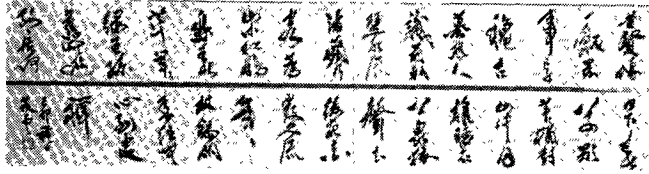


昭和五十八年度卒 中村 青涛（純一郎）



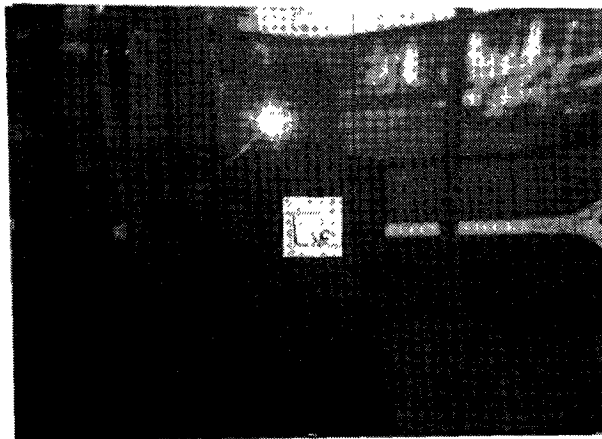
昭和五十九年度卒

石橋 築雲 (正隆)



昭和六十二年度卒

白糸 林太郎



特別寄稿

書道部に何を期待するか

部長 人文学部教授 青木文夫

書道部のみならず、文化部の活動全般についての私の管見は、すでに『荒鷲』三十七号で述べているとおりであるが、ここでは、思うが俛に現在の考えを綴ることにする。

過日、単位を取れなかった学生が私のところへ来て、曰く、「一生懸命やったのに、先生はそれを評価してくれないのですか」と私の答えは、「一生懸命やったと他人に評価されない理由を考えたかね」と。すると学生は、「先生が結果だから判断しているからじゃないですか」とのたまう。そこで私は、「結果だけで私が判断していることを知っていて、過程の努力を判断するよう私に要求するのかね」と。そこで学生が、「そうです」と答えれば、私も「君の言っているとおりだから単位は出せないね」で終るはずだった。ところが、曰く、「先生は、結果だけで判断することに疑問を感じたり、それを偏っているとは思わないのですか」と。さて、ここで私はどう答えたでしょうか。

この答えは述べないことにするし、どう答えたかを諸君も考えてほしい。ただし、私は、この学生が授業にそこそこ参加していたが、とくに努力が目立つとは思っていないし、試験の結果からは努力を感じられなかったのだが、本人が言っていることは嘘ではないようにも思えた。

私とこの学生の関係は、教師と生徒という結びつきがあっても、赤の他人のようなものでしょう。これが、一般的な人間関係なのかもしれません。でも、書道部の皆さんは、お互いに結果だけでなく相手を評価できないような関係に陥っていないでしょうね。

「これから求められる書について」

講師 大原蒼龍

この題を依頼された時少々困惑したのだが、以前より思う所もあつたので、二、三述べてみることにする。

まず、「現代の建築様式に調和する」という条件が考えられよう。例えば、マンションやホテル等の室内、又はロビー等、そういった近代建築に合う額や表具はどのようにしていけばいいのか、一考の必要性がある。インテリアの一部として書を飾るという事を、デザイナーと考察しながら作ってみてもよいかもしれない。また、公園やオフィスビルの谷間等の屋外に書を置く方法も考えてもよいだろう。但し、書は二次元における造形芸術であるのだから、オブジェ的な立体性を持つ彫刻等とは異にしなければならぬ。つまりは屋外でも壁面が必要となってくるのである。町中で見うけられる意を用いた書的文字といえ、看板や施設の表示等がある。しかし、それは印刷したレタリング的なものであり、書的生命のある書芸術とは違う。やはり、鑑賞に耐え得る書作品が必要となるのである。

次に、書体分野から考えてみた場合、一般の人が求めるものといえ、やはり「読める書」という事になるのだろうか。しかし専ら、なにも書作品を見ずとも活字でよいという事になる。そこではもはや、芸術を鑑賞するという行為は無い。芸術鑑賞には、直感的観賞、分析的鑑賞、体験的鑑賞とがあり、最初に行うべき鑑賞は、理屈抜きにそのものを純粹に感じようとする直感的鑑賞である。よく「抽象芸術は分からぬ」という言葉を聞くが、それ

しか相手を評価できないような関係に陥っていないでしようね。

はいきなり分析的鑑賞に向かおうとして結果、鑑賞できずにいるのである。本物の美というものは、夕焼けや満点の星空のように理屈抜きで美しいのであり、人に興味を懐かせてくれるのである。「書は文字を素材とした造形芸術」であり、また「書は心の核心にある第一義的な生命の躍動を表現として定着させるもの」(新井光風)なのだから、その造形性や書から発する作者の哲学・思想・精神、または香りのような味わいといったもの等、多様な要素が美しいのであり、言葉と書の美が一致しないのは至極当然のことなのである。

つまり、作家は鑑賞者を「理屈抜きに楽しんでさせよ」という事を追い求めていく必要がある。それには、「求められる」という受け手側の事を先んじて作品を作っているは、より深慮な拡張高い芸術には発展し得ないと考える。「作品」ではなく「商品」になる恐れさえあるのだ。よりよい芸術、を作っていくには、如何にして何を「求めるか」という主体的姿勢こそが作家に要求されるのであり、また最も重要な部分と考える。

創部当時の気概に還って

書心会 会長 柴田 一夫

書道部は創立当時、一人前に認めてもらえていない同好会ではあったが、しかし全員一日も早く部に昇格したいという意気込みで一致団結し、若さも手強い目的に燃えていました。その為には何をすべきかを書道の鍛練よりも真剣に取り組んでおりました。

である。よく「抽象芸術は分からぬ」という言葉を聞くが、それ

まず、本来の趣旨である書道の上達の為、各書道展に出品しました。しかし我々の書が世間では評価以前の作品であった事を身をもって経験いたしました。その中でも創立二年目にして諸隈君が西部毎日展で初入選したときは全員が歓喜したものでした。

過去の例からして同好会から部に昇格するには三年が基準であったが、裏工作が功を奏して二年で部に昇格する事が出来ました。その時の文化部会から入る年間部費が三千元でした。

このようにして書道部はヨチヨチ歩きを始めたわけですが、幼児のように怖いもの知らずに、何かに挑戦し続けた訳であります。

まず、福大書道部を世間に認めてもらう為に、西日本高等学校揮毫大会を企画、福大書道部が中心となり、学生書道連盟、それから一番大切な書技向上の為に心身気鋭の講師をお招きする事、我々の研究発表の場として機関誌「荒鷲」の発行等々部の創生期には、目的に向かって理屈抜きで一心不乱に突っ走ったものでした。

時は経て今の部員は学生生活や部活動にぶつける何かを持っていますか。学生気質が変化していると言ってしまうとそれまでですが、人生で一番大切なまた有意義な時を、後輩や自分の子に自慢出来る一時であって欲しいものです。

最後に書道部にお願いたしますが、部員の減少は時代の流れで致し方ないと思われませんが、我々が同好会を創った時も確か五名く六名でありましたが、一人一人が部を学生生活の素晴らしい思い出の場にしようと努力いたしました。

現書道部員は小粒でも精一杯の悔いの無い学生生活及び書道部員であつて欲しいと願うものです。

雑感く書く

昭和五十八年度卒 満生 憲親

今、巷では書道ブームと言われている。中央の展覧会から地方展、県展と盛んである。しかし、それも仲間内だけのものとなり、一般の人々には全く無関係のものとなりつつもある。それは書というものが一般の人々の生活の中に溶け込めておらず、書は難しいもの、読めないもの、分からないものとしてとらえられているからである。

書は文字を書くと言う行為から始まる。しかし、その書くことに興味が沸かなければ、書の普及もあり得ない。それには、下手でもよいから楽しく書ける環境が必要である。最近、絵手紙も盛んになってきている。何度か展覧会をのぞいたが、決して上手とは言えない作品から、何かしらほのぼのとした感を受けた。何より言葉がよい。自らの言葉であり、その時の感情が絵や書となって表現されている。人間としての素直な感情が、そこにはある。

「相田みつを」(故人)という書家・詩人がいた。この人は、人間の奥深い想い(内面)を飾り気のない言葉として書に表現している。現代の書家達に言わせると、決してほめられた文字では

ないらしいが、一般の人々から絶大なる支持を得ている。これは相田みつをと一つに他ならない。混迷する世紀末の日本。物々が豊になれば心が貧しくなるもの。人の命や心を大切にするという考え方が、だんだんと薄らいできたのではないだろうか。物溢れ、心貧しき生活の中「おかげさま、ありがとう、もつたない」という謙虚な気持ち、感謝と喜びの心を求めている人々が多いのであろう。

本来、書というものは個性により表現されてよいものと思う。ただその為には、やはり文字がどのような時代背景、言葉の発展を経て誕生したのか―甲骨文・金文・篆書・楷書・行書・草書―といった変化を知っておいてもらいたいのも事実である。それを踏まえ、下打ちされた書で、個性が発揮されれば素晴らしいことである。「相田みつを」がそうであった様に…。

先人達もやはり、それを基盤に個性を磨き、後世に残る仕事をしている。しかし、そうは言っても一般の人々がそれを理解することは難しいことでもある。そこが今からの課題でもあるだろう。

昨年、前崎鼎之先輩の社中展を拝見させていただいた。生徒の皆さんが楽しんで作品を制作されていることが素直に見て取れた。それは、前崎先輩の指導もさる事ながら、表具(軸にしたり、額に入れたりすること)がとてと斬新で、目を楽しませてくれるものであったこともある。書いた文字が、表具により一段と輝きを増す。そこには楽しく文字を書くという環境があった。

人間の奥深い想い（内面）を飾り気のない言葉として書に表現している。現代の書家達に言わせると、決してほめられた文字ではない。

要は、誰もが楽しんで書に関わる事が出来る事。それがこれからの書において大切なキーポイントとなるのではないだろうか。

学生に訴える

学術文化部会 常任幹事長 中村 諭

様々な可能性を秘めているこの大学のキャンパス内。それをうまく活用せずに、外でアルバイトに明け暮れる学生が多い状況を見てみると、消極的な個性のない集団が生まれるのも仕方がないように思える。学生としてどのような意識を持てば良いのかを考えていきたい。

大学生だからできること。それは失敗。社会ではタブーな失敗も多少は許される。積極的に様々なものに手を広げ、自分の可能性を見出し、それが経験となって自分に残る。特に失敗からは、実に多くのことを学ぶことができ、社会にでても大きな財産になるのではないだろうか。

大卒でも職がないこの時代の中で、必要なものは個性である。学歴社会の間から個性重視になりつつある今、大学のあらゆる媒体に目を配り、手探りで自分の個性を見つけ出し、自己成長につなげることが大事になってくるはず。

大学生、周りを気にし過ぎて、個性を否定するような生活をしてはいけない。もう少し自分自身を真剣に見詰め直し、キャンパス内のあらゆる媒体を自分の為に活用していくべきだ。その上で

のであったこともある。書いた文字が、表具により一段と輝きを増す。そこには楽しく文字を書くという環境があった。

失敗を恐れず、むしろ「失敗するために挑戦しよう」という気持ちで臨んだ方が、良い経験につながるだろう。

大学生の身でありながら、偉そうなことを言うようだが、「大学での失敗は社会での成功」この言葉を社会人のタマゴである学生に訴えたい。

福大書道部への思い

福岡学生書道連盟 運営委員長 九州大学 久原 琢水

福大書道部との最初の出合いは、僕が一年生の時の春季連盟総会の日であります。勿論この日は連盟との出合いの日でもありません。総会と飲み会のケジメ（ギャップ）が凄いです。直ぐに連盟のトリコになりました。しかし一番印象に残ったことは、福大書道部の力強さだと記憶しています。というより怖かったです。

なにより当時の福大書道部には、組織力、発言力、影響力……とにかく凄い。どちらかといえばお遊び系サークルである九大書道部の僕にとつて、福大書道部は、とても新鮮でした。

それから3年間、恒に連盟をリードしてきた福大書道部の先輩方から、書技は勿論、様々な考え方や、人の上に立つべき姿など、教えればキリがない程たくさんの方から教えて頂きました。また、福大書道部の先輩とも仲良くすることが出来、特に過能君は良きライバル、良きパートナーとして、今でも心強い存在です。今の

自分があるのは、福大書道部のおかげといっても過言ではありません。

そのような素晴らしい福大書道部は、近年部員減少の傾向にあるようで、本当に個人的で申し訳無いのですが、寂しく残念に感じています。時代の流れでしょうか、それともたまたまなのでしようか。それでも福大書道部は今も健在、少数精鋭。現在の部員を見ていると、2、3年後には見事に復活するのではないかと期待してしまいます。是非諦めずに頑張ってくださいです。そして同様に減少傾向にある連盟を、増加の方向に変えて欲しいです。

最後になりましたが、荒鷲第39号発刊おめでとうございます。

また、このような文章を載せて頂き、有り難うございました。強き福大書道部の益々の御発展、心よりお祈り致します。



部
員
寄
稿

私のOFFの日

私の一休み

法学部 法律学科 四年 中島 沙織

最近、私が休みの日によくすることといえば、「歩く」ことではないだろうか。よく歩くようになったのは、休みの日にちよつとでも運動してみようかと思つたからだ。しかし、家から片道三十分位のところの、田んぼばかりのところを歩くだけでも、咲いている花で季節を感じる事ができて、何だか楽しくなつてくる。時には母と二人で往復二時間半をかけて遠出することもある。ただひたすら歩くだけではなくて、途中色々な話をしたり、景色の移り変わりをしているとすつきりした気分になる。そのため、歩くのも苦にはならない。

また、夏休みには山に出かける。私が山に登るようになったのは小学生の頃からだろうか。家族の間では、今でも夏の登山は恒例になっている。しかし、以前は山に登るのは大嫌いで、父に連れられしづぶ登っていた。ただ疲れるだけ、苦しいだけなのに、なんで登るのだろうとうらめしく思っていた。

しかし、最近では夏になると山に登りたくなる。去年頂上で感じた、ほっとしたような、うれしいような気持ちがよくえり、もう一度味わいたくなる。そして、山が好きになると同時に、山の雄大な自然も好きになった。どんなに疲れても、頂上からの景

色を見ると、疲れなど一気に吹き飛んでしまう。だからこそ、山は決して登って下りるだけのところではないと思うのだ。

歩くことも、山に登ることも、確かに「ただそれだけ」かもしれないが、歩いていると、日常生活の中では得られない、何かいいものを見つけられそうな気がする。だから、これからも、忙しい時でも、休みの日には自然の中でちよつと一休みできたらいいなあと思う。

モグのOFFの日

工学部 電子工学科 三年 山根 芳子

夏休み中のある日、一年生女の子三人を学文会キャンプに連れていく為に、〇場さんと夜須高原少年自然の家に行つた。なぜ、〇場さんと一緒なのか？なぜなら人間ナビだから、である。

自然の家に着いて、まず〇場さんがしたこと。それは何故か一輪車乗りだった。一年生は驚き、自然の家の職員の方が不安そうに〇場さんを見ていたのを私は見逃さなかつた。

一年生を送つた五分後、ある場所に着いた。ある場所とは、なんと、〇場さんのおばあちゃんの家だ。自然の家の目と鼻の先に位置し、のどかなところだった。家に鍵も掛けずに近くの公園でゲートボールをしていたおばあちゃんは素敵としかいいようがない。

の雄大な自然も好きになった。どんなに疲れても、頂上からの景

い。

次に目指した先は○場家。いわゆる、○場建材店である。そこではたくさん美味しいお料理を頂いた。○場さんが料理の腕が良いの親ゆずりだ、ということを確認した瞬間でもあった。これだけで驚いてはいけない。食事中に○原さん拉致計画を練った私達は、久留米までの道のりを○場さんのお父さんに尋ねた。すると、たくさんの紙をつなげて作った手作りの地図（○場さんのお父さん手書き）で説明して下さった。

次に、「美味しいアップルパイを食べよう。」という甘い言葉

の誘惑に負けた○原さんを拉致するために青峰団地に向かった。

○場さんのお父さん作の地図は大活躍だった。

○原さんを拉致した後、人間ナビの○場さんに地図を持たせ、

パイの店へ。途中、○場さんが私にうまく道を教えなかったが為

に「木宅方面へ向かって車を走らせてしまった。そこで」木拉致

計画を実行したが、「木は○原さんのように簡単ではなく失敗に

終わった。

このような過程を経て、私達は無事に美味しいパイを食べ、三

連水車を見、福岡に帰ってきた。

愛車のカローラに燃料が満タンに入っている時の私はかなり強

気である。ドライブに行きたい時は、満タンに入っている時を見

計らって声をかけるように。

私のOFFの日

法学部 法律学科 一年 川副輝美

最近の私のOFFの日は、一言で言えば、自分でも何してるんだか分かりません。車の免許を取ってからは、練習を兼ねてコンビニに行ったりしています。ところで、私は運転が、多分下手です。特に、バックで駐車場に入れるという行為ができません。なぜなら、ポールがないから。ちなみに、自動車学校では、ポールが後ろの窓から見えなくなったらハンドルを切るように教えられたわけですが、担当の指導員と自動車学校自体があまり好きではなかった私はポールの何本目でハンドルを切るかという教え方に「こんなのは、実際には役に立たない。意味がない。」と反発していたわけですが、本当にあの練習は、あまり意味がなかったと今でも思います。（というか、ポールがあっても縦列駐車と方向変換には問題があったのですが……）つい最近もバックで駐車場から出ようとして、右前方に壁があることを忘れていて、ハンドルを切りながら出ようとしたら、おもいつきりぶつけてしまいました。車はもちろん破損。家族に言ったら、「あんたのバックの仕方じゃいつかこうなることは分かっていた。」と言われてしまいました。

しかし、わたしは、まっすぐ運転するのは最上級です。最近は何頃の練習の甲斐あって、右左折れも上達してきました。免許取得当初は右左折前の減速の仕方がつかめなくて苦労しました。あとは、バックを完璧にしたら私はセーフティー・ドライバー？ 完璧です。

そういうわけで、私とスリリングな休日を通じたい方は、契約書を持って、いっしょにドライブをしましょう。

以上。

私のOFFの日

人文学部 文化学科一年 川原敦志

私は学校がある日は、もちろん学校へ行き、そして部活をして帰ってくる。

暇な日、つまり休日や講義がない時などはほとんどすることがないので、一日中家でボートとしていることが多い。しかし、試験や小テストなどが行われる時は、当り前だけれどもそのための勉強をしている。

しかし、こんなぐうたらな私に、する事が手に入ったのである。それは、普通自動車免許である。これを取ってからというものの、暇な時には、車に乗ってドライブしたり、買い物に行ったりしている。マイカーはもちろん持っているないので、家族の車を使わせてもらっているが、父の車や兄の車は大きすぎて、自分には使えない事がないと確信したので、まだ一度も使わせてもらっていない。仮に使ったとしても、傷をつけたりして帰ってきた時にはもう致命傷ものである。(特に兄の車は)だから、母の中型の車か作業車に使っているトラックの2台に乗っている。運転し

ている時は、気分がそうかいしていたり、逆にむかついていたりする事もある。この事は誰でもそう思うだろう。気分がそう7かいている時は、スムーズに進んで目的地に早く着いたりしている時であり、ムカついている時は、前の車が制限速度以下で走行している時などである。

学校で休講などがあつて、時間があいている時などは、だいたいオアシスまたは第一食堂などにいるか、部室に行つて時間が来るまで待機していたりする。簡単に言えば、ジュースを飲んだり飯を食べていたりする時は、「する事があつてよかつたなあ。」と思うけれども、飲み終わった後や、食べ終わった後はまた、する事がなく、孤独なものである。(友達がいる時は別。)部室で部員と話している時は、とつても、とつても楽しい。しかし、寝ている時は、身体がだるくなり、その場所から動きたくないような気持ちになる。おまけに寝ていて、「起きるか」と思った時に起きようとすると、うつぶせでよく寝ているので、腕がしびれたり、頭が重くなつたりして起きれない事がよくある。この時は非常にツライ。時々、涙が出る事があるが、何故でできたのかは、自分でもよくわからない。

このように、私がOFFの日、つまり暇な日はごく平凡な事をやっていますが、また自分にとつて、「する事をもつともつと増やして寝る暇がないようにできたらいいなあ。」と思つています。

の車か作業車に使っているトラックの2台に乗っている。運転し

〜JUNIORの日本について思うこと〜

Shall we 努力？

法学部 法律学科 四年 荒木綾子

最近の日本人は部勉強に真剣に取り組んでいるでしょうか。先日、そんな問いに答える“答申”があった。「単位取得を厳しくし、簡単に卒業できないようにする。『現在最後の学生生活を送っている人にとって、この答申は『当然のこと』と取る人と、『フー、何とか安全圏』と思つた人、様々でしょう。ちなみに私は…後者です。」

ところで皆さんは二ノ宮金次郎、覚えてますか？学校に行くこともままならず、薪を背負い歩きながら、片手に書物。小学校の頃、この人の銅像を校庭で見ても「すごいな。歩きながら字が読めるなんて」と心から感心したものです。今となつては、寸暇を惜しんでまでの勉強。この努力なくしては彼の後の偉業は無かつたのです。その姿＝努力というものを、私自身もう一度改めてみるべきだと思つています。

さて、その彼に代表されるように、日本は“努力の国”と言われています。とくに、第二次世界大戦後の日本の復興は驚異的なものがありましたから。あの敗戦の跡地に高層ビルが立ち並び、高度技術が日本中を駆け巡り、世界へ進出する…。これらは全て当時の日本人が一致団結して豊かな国作り目指し、そして憧れた結果としてあるのです。目標があるというのは凄い力まで生み出す

んですね。

では今の私達はどうか？本当にこれがしたい、欲しいと“目標”を持つたとき、どのような努力をしていますか？自身を突き動かし周りを巻き込むくらいの発想や行動力をしたことがありますか？私自身においてはYESとは言えません。だって自分でそこまで思いつめるような行動をとつた覚えが無いから。皆さんはどうですか。もし覚えが無いとしても、これからでも大丈夫だと思つています。誰かが何か一つの事に懸命に打ち込んでいる姿を見て何も何も思わない人はいないと思つています。やっぱりそういう人を見たら私自身応援したくなるし、共に頑張ろうと言いたくなるし。

つまり、今の日本においては「これ」と言つて共感を呼ぶほどの“努力”が見られないから国内外からのバッシングがあるのでしよう。が、その“努力”を實際携わつている人と外野から見ただけの人との実感の隔たりがあるのも事実です。この隔たりを無くす行動、そして互いに歩み寄る為の、その又努力をしないといけない…。ムズかしいものです。がしないとイケないのです。

(嗚呼、ややこしい…。)

これからの私達には重大な責務が次々と課せられてきます。その為にも自分達がこの日本の原動力となることを忘れずに活動すべきではないでしょうか。

まずは自分の身の回りの小さな努力と、その為の行動力。この行為が実を結べば日本まで変えちゃうかも知れませんよ。皆さん、そんな努力する人を見かけたら快くてをさしのべたいものですよ。

「やりたいことをやる」ということ

経済学部 経済学科 四年 進藤 久美子

もうすぐ二十世紀も終わって二十世紀がやって来る。二十世紀になる時、私は25歳。もしノストラダムスの大予言が当たるなら、私はこの若さにして生涯を閉じるということか？

ならば今のうちにしかできないことをやらなければ！つべこべ言っている暇はない。

大学4年になった今、「もつとこんなことをしておけばよかった」と思うことは数知れない。私たちはどうしても、「子どもらしさ」「学生らしさ」というような言葉に惑わされる。時にはわきまをえなければならぬ言動、責任を持たなければならぬこともたくさんある。しかし「子ども」だから「学生」だからできる事、その時にしかできないことは、それ以上にあるはずだ。

そう考えた時、私はある種の後悔の念が頭をよぎる。今までなんて時間を無駄にしてきたのだらう……と。

「あれもしたい、これもしたい」と一丁前に思うクセに、それができない原因を他のせいにしていく自分に気付く。本当はその気持ちが強ければ、本気ならできるはずなのだ。

人は、オリンピックや、ある人のドキュメント、その他様々な「人生の成功秘話」のようなものを見て感動する。一生懸命に一つのものに打ち込んで頑張っている人の姿を見て、心を打たれる。そして時には、その人に対して尊敬の念を抱くこともある。それはなぜなのか？それはきっと、そのような姿にどこか憧れを抱いているからだらう。

誰だつて本当は、自分が一生懸命になれるものを探しているのだと思う。それが人にどんな影響を与えようと、自分自身の「一生懸命」を求めているものなのだらう。それを持っている人は、やはり輝いて見えるし、自身もきつとそんな自分が大好きなはずだ。

“一生懸命に生きる”ということ、簡単そうで実はとても難しい。今の日本の中に、私も含めて、果たしてどれだけの人が生懸命に生きているだらう。確かに、不本意ながら「生活の為に」一生懸命働かなくてはならないことだつてある。しかしそれは別のところでの一生懸命さは……。

私の好きなミュージシャンの歌のある一筋に『明日のこと考える前に目の前にある全てのことにあせをかけ』というのがある。この詞に私は「はっ」とさせられた。

学生という身分である私たちは、ある意味とても自由なのだ。もつともつと食欲に、そして一生懸命に自分たるものを見つけたら、やりたいことを見つけて実行しなければならぬのではないだらうか、と思う。

「やりたいことをやる」ということ、そう簡単なことではないが、その「気持ち」は大切にしたいものだ。そしてその気になれば、それは実現できる！という気持ちも、常に持っていたい。少し偉そうだが、私自身を含めた今の日本人に足りないモノはこれだらう、と私は思うのである。皆さんは今、「一生懸命」に毎日生きていますか？私は……今からでも心を入れ替えなければ。「我人生に悔いは無し！」と思えるためにも……。

それはなぜなのか？それはきつと、そのような姿にどこか憧れを抱いているからだろう。

このごろの日本について思うこと

法学部 法律学科三年 石橋 幸恵

このごろの日本について、言いたいことはたくさんある。しかし、政治のことや経済のこと等、私がいくらここでほざいても、どうにもならないので、そういうことは、敢えて議論したくない。現在の若い人（私も含まれていることは否定しない）への不満もあるし、また、年配の方々についても、文句はたらたらある。だが、ここは、そういうのを愚痴る場所ではない。ゆえに、私が日頃から言いたかった、このままではいけない！と思っている、身近なことを主張しよう。

それは、一言、特に若い人、活字を読むのだ！最近テレビがあるせいか、活字離れが甚だしいのではないかと危惧していたりする。映像の素晴らしさは否定しないが、活字も良いものだ。こんなにもいいものをほうっておくなんて勿体無い！また、本を読むということは、日本語を勉強することだ。活字を読めば、それなりに漢字に強くなるし、文章表現のボキャブラリーも、豊富になるというものだ。確かにパソコンや、ワープロを使えば、知らない漢字でも変換できるが、その漢字が、果たして自分の文に正しいのかは、やはり自分で判断するしかないのだ。要するに、私が言いたいのは、最近日本人であり、日本で生活をしていながら、日本語を知らない人が増えてきたということを言いたいのだ。日本語を手取り早く学びたいなら、本を読め！所詮本と言えども、人の創造した産物に過ぎないから、そりや間違った表現は多少ある。しかし間違った漢字というものはほとんどない。そんな本が

これたろう、と私は思うのである。皆さんは今、「一生懸命」に毎日を生きていますか？私は……今からでも心を入れ替えなければ。「我人生に悔いは無し！」と思えるためにも……

あつたら、出版社に苦情を言つてやる。それに、それに読書は感性を磨く。たつた一行だが、その文は多くのものを表現することが出来るし、読む側の想像力だつて、掻き立てられる。

本を多く読んでいると、いざ自分が文章を作るといふとき、自分が読んだことのある本の文章がふつと思ひ浮かんでくる。やはり人には文章の表現に特徴があるから、多くの作家の本を読めばそれだけ多くの文章表現を学ぶことが出来るの。素晴らしいじゃないか。こんなにすごいものをほつたらかしておくなんて、本当に勿体無いことなんだぞ。

私は本当に読書が好きなのだが、読書をするこの利点に、文を読むのが早くなるということがある。個人差はあるのだが、文章を読みなれた人と、そうじゃない人では、やはり速度が違う。例えば、試験で答案を読むのも早くなるし、文章の意味を正確に捉えることも出来るようになる。便利なことは、就職して探さなければいけない資料があるのだが、その資料はどの棚あるのか分からないで、複数の棚を調べなければならなくなつたとしよう。一冊ずつファイルの背表紙を見ていかなければならない。なんと面倒くさいのだろう。しかし、ここで文字を読むスピードが早ければ、大いにお得だ。我々は日本人なので、日本語を読むこと、書く事に達者で損をすることはない。

現代では正しい日本語が失われつつあることに、私は落胆している。……いや、私自身正しい日本語を操っているわけではないが、せめて文を書く時は、使える漢字は全部使い、正しい表現を、と心がけている。本当にやばいよ、このままでは。国際化が進み、

全てがコンピューターに頼りつつあるいまだからこそ、もう一度初心に返って日本語を勉強しなければならないと思うのだがなあ。

最近の日本について思うこと

経済学部 産業経済学科 一年 太田真文

最近の日本はだらけている。政治、青少年の非行。家庭内暴力様々な事がおきている。毎回ゴールデンタイムのニュースを見てみると不景気のおおりをうけて一般企業の厳しい経済状態のニュースや通貨の下落、銀行の貸し渋りといったことが毎日のように流れているのではないか。又、不景気のおかげで、現在の風俗業界はうなぎ上りに景気がいいらしい。何か接点というか共通点はあるのだろうか。

最近、学園祭という機会で福岡市内の女子高校生と知り合う機会を得た。それで今の女の子について色々話を聞かせてもらった。話していて痛感したことは、物の考え方や価値観が相当違っているかと思つた。また、実際に身近に援助交際をしている子がいると聞かされた時は本当にびっくりした。なぜ、そのような事をするのか。僕は聞いてみた。すると彼女たちは何もなかったかのようにこう言った。

「お金の為」と。何と悲しいことだ。自分の体を売ってまでしてお金が欲しいのか。又、それを求める社会の男たちは何を考えているのだろうか。ただ欲求を満たすだけで良いのだろうか。もしもそのような行為を自分の娘がしていたらもうこの世の地獄であ

る。もう自分なら死んでしまいたい。男なら誰でも女の子に対する本能はある。オスのライオンが生殖時期にメスのライオンを求めようとする部分が多からず、少なからず似たような事はあるが、我々は人間である。理性、感情を持った人間である。そのことを忘れてはいけない。今までの話の中で一番何が原因なのか。それは、多分この日本の不景気だろう。企業では大きなリストラや賃金ダウンなどがある。それに対して国はこれといった大きな対策をだしてもあまり効果はない。ようするに政治家が悪いのではないだろうか。私は少なくとも最近個人的にそう思えてたまらない。だから今の古臭い政治のやり方を欧米、ヨーロッパもしくは国連のようにみならつて改革が必要ではないか。税金を減らしたり公共工事の増大や公的資金の導入を減らしたりと今の政治家は大丈夫なのだろうか。いっそ自分がなれば将来の日本は明るくなりそうな気がする。

がんばれ国民よ。

このごろの日本について思う事

経済学部 産業経済学科 一年 木下崇

このごろの日本について、まずは大学生らしく政治について書こうと思います。一言で言うところ「行き当たりばったりな政治」だと思います。アメリカの政治は大統領の下にエリートとかブレインと呼ばれる人がいて何年、何十年を見通しているのに比べ、日本は目の前に現れた問題のみを考えようとしている。しかもそれ

もそのような行為を自分の娘がしていたらもうこの世の地獄であ

も満足に出来ない。これでは僕を含め、日本人の関心が政治から遠ざかり続けるのも当然です。今のままでは誰が首相をしても一緒ですね。はっきり言って無意味。

次に最近「単純な動機の犯罪」が多い。それも変な犯罪。やはり本当に危険や死が身近なものでなく、どこか遠くの事の様な感じがあるから、命や人を傷つける事に対する感覚が麻痺しているのだと思います。

次にこの頃「普通」という言葉がやたらと使われている気がしますし、僕自信もかなり使っています。味や人の印象、何かを見た感想等、人から聞かれた時に、何故か「普通」と答える。基準も何もなく、何が普通なのか誰も何もわからないまま「普通」とまるでキーワードのように使う。よく考えると僕が使う普通というのは、多分「特に特徴がなくて言うべき事もない、それに何て言ったらいいかわからない」という時に使っている気がします。このごろみんな使っているキーワード「普通」は多分これからもみんな普通に使っていくでしょう。

最後に「このごろ日本は「不景気」ですがみんな不景気を「そのうち回復する」と軽視している。確かに景気は周期のある波のように繰り返しているが、それは、誰かが何かをして初めて景気が回復するものです。例えば、新しい商品を作る。いいものだと誰かが金を出して、工場を作る。土地が売れて、労働者が雇えて、商品が大量に作れる。みんなが買えばそのお金で会社も何かを買ったり、建設会社に頼んでビルを造り、金を使う。そして大会社

ンと呼ばれる人がいて何年、何十年を見通しているのに比べ、日本は目の前に現れた問題のみを考えようとしている。しかもそれ

になり人をたくさん雇う。それでその商品の作り方の秘密を他の会社も出来ると他の会社もそうして大きくなり経済が回る。そしてその市場が安定した頃別の分野で同じ事。つまり誰かが何かしないと回復しない。多分当分このままの状態が続くでしょう。何年かはこの不景気の泥沼に日本がはまり込んだまま。

要するにこの頃の日本人は自分の事を抜けた事、特に日本の未来や他人の事について真剣に考えていない。というより何も考えていないから、このごろの日本が悪い面ばかり目につくという事だと思ふ。もちろん、このごろの日本人に僕は含まれているからまあ少しづつ日本の事もこれから考えようと思ひます。



人生〇〇の日

人生における転機

商学部 貿易学科 四年 平 由美子

人生における転機とは、自覚の有無に関わらず一生の間に幾つも存在している。私の転機の一つは、この書道部に入部したことだ。

高校時代は、人付き合いに対しても何か自分の事に関しても

「当たり障りなく無難に」と考えていたように思う。一見するとそれは大失敗をすることなく、良いことのように思えるが、裏を返せば体当たりすることを躊躇し、必要最低限の範囲をこなすといった消極的意志に支配されていたとも言えるのではないか。こうして過ごしてきた日々は、今では色褪せ、ぼんやりしていて思い出せない。

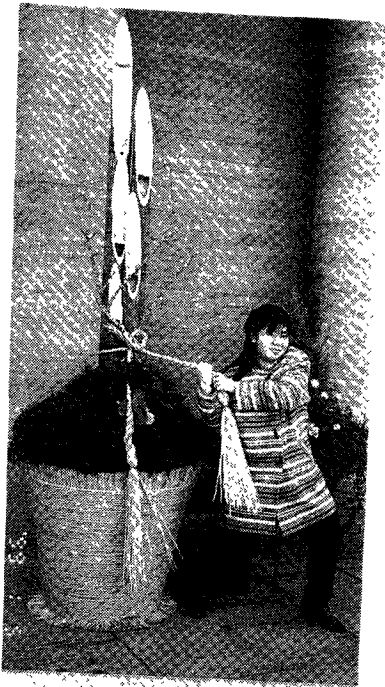
そのことに気付かせてくれたのは、書道部での沢山の友達との出会いであり、これは、私にとって他の何にも代え難いものだ。

―意志や感情を表に出すこと―これを「直ぐ感情的になつて」と冷笑する人もいるが、私はこれを凄じいことだと思ふ。確かにそれを抑制しなければならぬ時も多くあるが、そういった場合を除き、素直にそれが表現できるということは、その人がそれだけ物事に一生懸命であるということである。真剣に思えば思う程それは強くなる。そして、もう一つ凄じいと思うことは、その動作を透達する環境である。ここでの環境とは周囲の人と、本人との関

係である。はじめから理解しようとする人がいなければ、自分の意志や感情を表すことを諦めてしまふかもしれない。それだけ周囲も受け止めようとする雰囲気があるから言えるのではないだろうか。(勿論、初対面の人に表現しなければならないこともあるが。)

このように、互いに気持ちを表現し、理解しようと努めるとで、本当に初めて互いに向き合えるような気がする。この大切さを教えられたことで、私は自分を変える転機を得た。無器用でも、このことを忘れず努力していただきたいと思う。

また、これは部活動においてもいえるのではないかと思う。例えば、何か伝えたい事がある時である。紙や黒板に書くといった間接的方法が当り前になっていくのは哀しいが、これも時代の変化なのだろうか。いや、このような簡単な言葉では片付けたくない。これから、もっともっと書道部が人とつながりを大切に、そして、現役、将来の部員に多くを学ぶ機会を与えられる場所であり続けて欲しいと心から思う。



餡子と私の人生

経済学部 経済学科 三年 大場 智子

私は皆さんご存知の通り、甘党でも餡子には目がありません。

私も知らないうちに、甘党になっていたので。自覚したのは小学生になってからです。それまでは、あまり覚えていません。

これは、母と小児科医の先生が赤裸々に覚えていた事件です。

私は子どものころは、とても痛がり、その上よく転ぶ子供でした。だからよくメソメソ泣いていました。転んでけがをするよりもっともつと痛いもの、それは注射でした。風邪を今以上にひきやすかった私は、富田小児科がかかりつけの病院でした。幼稚園の年中お月見祭りの日、私は風邪を引き大変高い熱が出て、

富田小児科に連れて行かれました。母の膝の上に乗せられ、先生が聴診器でお腹や胸の音を聞き、

「寝冷えですね。注射をうって、安静にさせてください。それから、おかゆやうどんなどを食べさせてください。」

と先生が診察結果を言いました。私は呆然となり、涙が出てワンワン泣き出してこう言ったそうです。

「今日のお月見祭り行けないの。ぜんざいがあるって、高良先生言ったもん。」

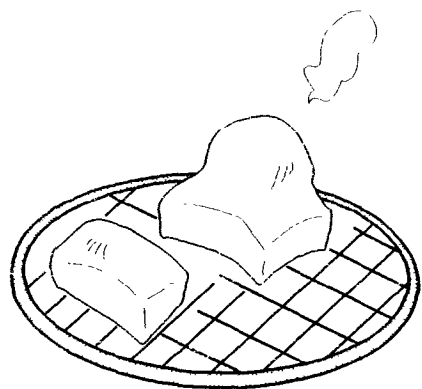
母は、お月見祭りと聞いてダンスに出られないことで、駄々をこねていると思ったそうです。なぜなら、ダンスは一番前列のステージ中央で一人持つお花の色が違っていました。私にとってはそんなことはどうでもよかったのでしよう。私の餡子好きは、この頃には芽生えていたのです。

ワンワン泣いている私を、看護婦さんはベットに寝かせました。我に帰ったのもつかの間、痛い痛い注射針がチカツとした瞬間ピーギャーギャー泣き出し、待ち相室の肝っ魂かあちゃんみたいなおばさんが

「どこの子かい。うちのこが起きるだろうが。」

と、病室に殴り込んできて、私はびっくりしてさらに泣き出すは、母は誤りまくるは大変だったそうです。母の迷惑省みず、私はお月見祭りにいけない悔しさ(ぜんざいが食べられないことがメインだが)と、痛い注射で病院中が迷惑するくらい泣いたそうです。

冬になると皆さん恋しくなるのが、中華マンだと思いますが、ほとんどの人が中華マンといえは、肉マン、カレーマン、ピザマンと言いますが、私はもちろん餡マンです。日本人で良かったなとつくづく思う寒い冬の今日このごろです。





人生について思索した日

法学部 法律学科 一年 松下 健太郎

僕は、ノストラダムスやエドガー・アラン・ポエなどの予言に興味を持っていたので、その系統関連の本を読んで思った事や、自分の経験などから考えた事を書こうと思う。

世の中には、色々と思議な事がある。明日の出来事や、一年先の出来事を、あらかじめ知る予知能力を持った人が時々いる。

まだ、起こっていないことだから、それを知ることではできないはずなのに、その人の予言した通りの出来事が起こってくるのだから不思議だ。夢の中でみた出来事が、そのまま何日か後に現れたりすることは、僕自信も経験した事があるし、ノストラダムスに至っては、何百年も前に第一次世界大戦の起こることを予言していたと書かれている。この将来に起こる事件を、前もってみることができるといふ事実を、どう考えるかといふことは、人生にとつて、とても大切なことだと思ふ。

このように、前もってみる、といふ場合の「みる」といふことは、この肉眼で「みる」のではないので、肉眼は閉じていて、心の目で見るといふのだ。つまり、「心」の世界で見ることが出来るのだと思ふ。「心」の世界でみるからこそ、まだ起こっていない未来の事でもみることが出来る。未来の事は、まだ起こっていないことだから、この肉眼ではみることができないけれども、「心」でみることが出来るといふことは、どこかに「心の世界」があるからこそみることが出来るのであつて、全然ないものは心でもみることが出来ないと思ふ。つまり、一つの事件を予知することができるといふことは、その事件が起こる前に、すでに心の世界にできあがつているからこそ、心でみて予知することができるのだと思ふ。何も無いものを予知できるはずはないのだ。このことは、現象界に起こってくる事件は、全て心の世界で既に先にできあがつていて、それが現れてくるのだ、といふことを意味するといえる。

この現象の世界は、既に心の世界で組み立てられたものが現れ

世の中には、色々と思議な事がある。明日の出来事や、一年先の出来事を、あらかじめ知る予知能力を持った人が時々いる。

てくる、ということになると、自分の運命を支配するにしても、まず、自分の心を先に支配しなければならぬことがわかる。

旅行をするにしても、その何日前かに、どの汽車に乗ってどこに行くかと「心」で先に決めて、予定を立てるのだ。そして予定した日になると、自分の作ったスケジュールに従って旅行をするのである。たとえ、他の人が作ったものでも、それに自分が同意すれば、それは自分が決めたことになると思う。

人間の行動は「心」が決めるのだ。「心」に描いた事が行動となつて現れるのである。学校を選ぶのも、友達を選ぶのも、会社へ就職するかも、どんな仕事を選ぶかも、どんな相手と結婚するかも、まず「心」の世界で描かれた自分のスケジュールが決めるのだと思う。

「心が行動を決める」ということを理解すれば自分の人生（運命）を明るく楽しく切り開けるのではなからうか。

人生決断の日「大学生活を成功させる5つの法則」

経済学部 産業経済学科 一年 三好幸弘

大学生になって、半年がすぎました。いろいろ夢を抱いて、入学したのに、何もできないまま時間ばかりがすぎていきました。

そこで大学生活を成功させるために何をしたらよいか考えてみました。

①まず彼女は彼女をつくる。

この現象の世界は、既に心の世界で組み立てられたものが現れ

個人的には、上原多香子ちゃんがいいんですが、多分、うーん、絶対無理なので却下。お互いに成長しあえる、そんな人を見つけたいですね。

②勉強と遊びの両立。

昔は、勉強しばかりして頭のいいやつ、つまりアリ型タイプが会社では必要とされ、遊んでばかりいるキリギリタイプは不必要とされていたが、今の時代アリ型タイプではもうダメだ。勉強もできて遊びもできるアリキリ型になりたいものです。

③目標をつくる

大学生になって思うことは、時間が自由だけに、無駄に時間をすごしてしまいがちである。それだけに、やはり目標をたてて将来役立てていきたいと思う。

④友達を多くつくる。

やっぱり大学生活に、友人が少なかつたらつまらないので、部活を通して、遊びを通して、多くつくっていききたいと思います。広く深くね。

⑤すごい奴になる。

いままで、いろいろ書いてきましたが、結局は自分が動かないと何もできません。あと残りの大学生活で、いろいろ経験して、努力して、自分で、良かったなあと思える生活を送りたいです。それで将来、僕がすごい奴になった時、『書道部で同じだった』です。』って言えばサインぐらいしますんで。

おわり。

人生至福の瞬間

法学部 法律学科 一年 亀山 知美

私の人生の中で、至福の瞬間は、多々あります（食べることに、眠ること、お風呂に入ること等）が、やっぱり一番のしあわせは、食べることにと思います。私の好物は、グラタンとイカソーメンです。特にグラタンは、チーズがこげている所を食べる瞬間は、最高に幸せを感じます。レストランとかに行つた時、たいてい、グラタンを食べます。私のお腹は24時間営業中です。三食グラタンでも全然OKです。

うちの妹はグラタンが嫌いです。信じられません。本当に信じられません。あんなに美味しいものを食べれないなんて、本当に気の毒です。でもそんな私の天敵は、グラタンに入ってるエビです。私は小さい丸まったあのエビがどうしても食べられません。他のエビは食べれるのですが、あのエビはどうしても食べられません。私は根本的に、海の幸は好みません。（特に貝類）

次に至福の瞬間は、眠ることです。眠たいピークの時に、布団に入つて寝る、あの喜び！！そう言えば、余談ですが、私は布団に入ったつもりが、起きたら湯船の中だったことがあります。あの時はさすがに驚きました。

でも私は夢を見るのが、あまり好きではありません。何故かという、ガツカリするからです。一回、ラーメンをたらふく食べる夢を見て、起きた時「えっ、ラーメンは……？」とガツカリしたことがあるのです。私は眠っている時でも、食べ物を見るのです。なんて食い意地がはっているのでしょうか。

次に至福の瞬間は、お風呂に入ることです。湯船に入つて、「あーっ」っていうのが好きです。（意味分かりますか？）私はお風呂（湯船）で寝るのが大好きです。両親は、危ないのでやめろと言います。でも、私は、あれほど幸せでいい気持ちの瞬間はありません。ただ、起きたら、お風呂のお湯がぬるくなつていて、寒い時があります。それでも、やめられません。

そして、私の至福の瞬間は、酒を飲むことです。ほろ酔い加減が良いのです。私がイチバン好きなのは、カル酎です。でも、私は、1999年、禁酒、いや、減酒を決意しました。



です。なんて食い意地がはっているのでしょうか。

結婚

結婚について

経済学部 経済学科 四年 過能 友和

結婚についてあんまり考えたことがないが、理想の女性が現れて、一生共に過ごしたいと思ったら結婚します。

結婚にはお金がかかるから、大変です。とくに、結納というものは、どうしていいかわかりません。これは、自分にとって、いくらかで、女性を買うというような感覚がして、いくら払っていいかわかりません。

別にどうでもいいんですが……。

さて、結婚してどういう暮らしをしたいかというのは、具体的にはわかりませんが、妻と子供を大切にして、とくに奥さんを愛したいです。

子供は、女の子がほしいです。としごろになったらいっぱいオシャレをさせてあげたい。そして、強い女性に作り上げたいです。奥さんについては、年をとっても、仲よくして、愛します。

老後は、もし、奥さんが、先に死んだら、四十九日が無事終わら、自分も死にます。

それくらい大切にできる人と結婚したいです。

結婚

人文学部 日本語日本文学科 三年 荻原裕子

結婚なんて私にはまだまだ先のことね、とまるで考えもしなかった矢先に、私の姉の結婚が決まりました。このことで、私にとって遠い世界のものであった「結婚」の裏までが一気に分かっってしまったのです。

「結婚」と一言で言っても、それに居たるまでには沢山の過程があります。まずは結納です。昔は大量の婚資が両家の間を行き来していたらしいのですが、今ではその形式のみを重んじるようになってきているようです。

私の姉の場合も例外ではなく、形式だけのものであったのです。が針金細工のようなものやお酒、人形、そして指輪などを頂いていました。

それからは、結婚式の準備です。会場選びに始まり、衣装選びなどなど、次から次へと波のようになくなってはならないことが押し寄せてきます。結婚式にはこだわればこだわる程忙しくなりま

す。それに忘れてはならないのが、新居の準備です。新しい生活を見る当人にとっては楽しく、嬉しくしようがないことかもしれないが、はたから見ると、かなり大変そうです。そしてそのようなくつもの準備を経て結婚式を迎え、二人は晴れて夫婦と認められるようになるのです。

これは悪魔でも、私の姉の結婚の話であり最近、婚姻届を出すだけで、結婚式をしないで済ませてしまう人もいて、本当に結

婚は十人十色だとは思いますが、やはり多くの人は、結婚をするならば結婚式というハードルは越えるでしょう。そう考えると結婚は本当に大変です。そして本当に「この人」という人でなければ、行きつくことができないだろうと思います。

相手のいない私にとって、必然的に結婚式は遠いものとなりますが、現実の結婚までを目にした私には、結婚なんてまだまだ先のことね、と改めて思うのでした。

(決して強がりではありません。悪しからず)

結婚

人文学部 歴史学科 一年 草野 心也

結婚とは、

最高級の

フランス料理である。

—草野心也—

結婚、ふたたび

人文学部 歴史学科 三年 佐田 美穂

私は、一年生の時も「結婚」という題で荒鷲の原稿を書きました。その時は、価値観がどうのこうのと書いて、先輩から「夢がない。」と言われてしまいました。そこで、今回は、私の以前抱いていた結婚の夢を書こうと思います。

私は小学生の頃、二十三歳で結婚して、二十四歳で第一子を出産するのが希望でした。その頃は、大学受験の存在を知らず、誰でも十八歳になったら大学に入学し、二十二歳になったら卒業するものと思っていました。私は六月生まれなので、卒業して三月たつと二十三歳になってしまいうので、二十三歳で結婚すると勝手に決めていました。また、子供は結婚して一年たつたら自然に生まれてくると、なぜか考えていたので二十四歳で第一子出産と決めていました。なぜこの様に早く結婚したかったのかというと、ズバリ、若いお母さんになりたかったからです。とにかく、若いお母さんにあこがれていたのです。

今考えると、何てバカなのでしょう。この話を、同輩の大場さんに以前話したところ、「バカと思われるけん他の人に話したらいかんよ。」と言われました。私も、もう話す(書く)つもりは全くありませんでしたが、今年も荒鷲の原稿の題が結婚だったので、書くしかない(?)と思って書いてしまいました。

ところで、ここで私の現実です。私は一浪したので、大学に入学したのが十九歳。順調に卒業できて二十三歳。卒業して三ヶ月たつたら二十四歳。もうアウトです。学生結婚でもしなければ、

私の小学校のころの夢はかないません。しかし、ぐうたらな私に、今よりも大変そうな学生結婚はできません。生活基盤もないし。とつてもお金持ちの、年上の、たくましい男性でも現れたら別ですが、そのような可能性も全くないし。

ということ、今の私の野望。それは、専業主婦になることです。家計をしつかりやりくりして、子供をしつかり育てて、普通の家庭が欲しいのです。誰かに「普通が一番難しい」と言われました。確かにそうかもしれません。しかし、私は「普通」を手に入れるため、これから地道に頑張るつもりです。

最後に、荒鷲が完成して皆に配られたら、私は「なんでこんなことを書いたんだろう。」と恥ずかしく思うことでしょう。人生には失敗がつきものですが、結婚には失敗しない方がいいよう、これから男を見る目を養っていいこうと思います。

結婚

経済学部 産業経済学科 一年 槻木和孝

「結婚しよう」

「うん、いいよ」

というバカげた会話をしたのは、何を隠そう自分自身である。

この、ありきたりなプロポーズをしたのは僕が汚れを知らない純粹無垢だった幼稚園の頃だったそうだ。残念ながらこのプロポーズは僕の記憶の片隅にもなかった。これを教えてくれたのは、

僕からプロポーズされたA子さんである。この話をした時はお互に爆笑した。ちなみにA子さんとはいまでもいい友達の関係である。自分が幼かったにしろ自分が恐ろしい。

結婚について書けといわれても、過去にプロポーズしたことがある僕にですら分らない。ただこれまで日本で普通に育ってしまつた僕にとつて、「結婚しない」「いけない人」という考えが心のどこかに潜んでいる。だから二十七才ぐらいまでは結婚したいという漠然な考えが自分の中に存在する。結婚というのは本当に厄介なものである。結婚するのは当人同士だが、何だかんだいって周りが色々をだしてくる。まあ、まかつたの赤の他人が一生、その家族らと一緒に付き合っていくのだから当たり前だけれども。自分はこれから結婚について大袈裟に考えないで一人より二人の方が楽しいという考えでいいと思つている。最後になるがただ一人では生きていけないから男性（女性）に頼りにするのでなく自立した男女が結婚するのに意義があるのだと思います。一人でも行生きられるけれど、この人と一緒に居たいと思うからこそ結婚するのではないのでしょうか。まあ結婚は人生の通過点にしかすぎないともいつて終わらせていただきます。ちよつとマジメに書きすぎたかもしれないと書き終わる今、反省しています。

結婚論

経済学部 産業経済学科 一年 中野 理恵

私の理想の夫婦生活は、夫が会社から帰宅したら3つ指ついでお迎えして、「食事にしますか、それともお風呂が先ですか」と言う妻の逆の立場です。ただ、こういう男性はいないだろうし、いたとしても私のような女性とは結婚しないでしょう。

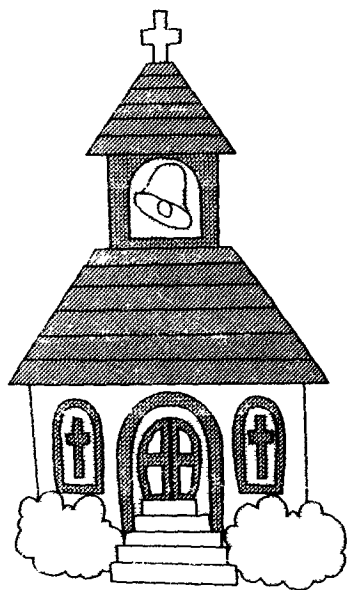
また私もこれは理想であつて現実的に考えると、お互いが自立している夫婦になりたい。(相手がいればだが…)たとえば、結婚しても子供が生まれたとしても、私は仕事を続けたいし、夫もそれに対し理解、協力してほしい。今の日本は理解してくれる男性いても協力してくれる人は少ない。

なぜ共働きにこだわるかという理由は3つある。まず1つ目は自分自身の充実感、つまり自己満足のためである。そのためにも生涯を通じてできる職につきたい。2つ目は、好きで専業主婦をしている人達には失礼な話だが、自分が専業主婦になって養われたいと思いたくないし、夫にも養つてほしいと思いたくないからだ。もちろん主婦の仕事が大変で金に換算すると一ヶ月30万〜40万円にもなると言われていることも知っているが、法的裏付けが何もない。縁起でもない話だが、専業主婦が交通事故で死亡した場合、職業は無職ということで、仕事に対する賠償金は0円である。3つ目は夫と同等の立場にいたいからだ。専業主婦をしていても同等の立場でいれるという人もいるだろうがそんなのは稀である。それよりも誰の目から見ても確実なものが欲しい。

私が思うに夫婦の問題は愛で片付けられても夫婦生活となると別問題だろう。夫婦生活には、愛に変わる何かが必要なのだと思う。信頼関係とか。私は「金」だと思ふ。聞こえは悪いが、愛がなくてもおまんまは食えるが、金がなくて愛だけあつては胸が満たされることはあつても腹は満たされない。

「金の切れ目が縁の切れ目」と言われるが私もたぶんそうするだろう。もし夫が失業でもしたら、6ヶ月ぐらいは待つがその後はおもらえるものは全てもらつて離婚するだろうし、サラ金に手を出しても×。その変わりといつては何だが、浮気は許すと思う。私にバレなければ何回やつても構わない。ただそれが本気になったら慰謝料をふんどくつて離婚だろう。その時のためにも私は働らいていたい。

ただ問題なのはここでどんなに自分の結婚論を論じたところで相手がいけないことだ。今現在、彼氏さえいない私がこういうのを書いてもよいものだろうか。まず自分の結婚論よりも彼氏探しに集中した方がいいような気がする…。



自由投稿

蛇足：再び

法学部 法律学科 三年 石橋 幸恵

一応自由に書いて良い…ということになっている。…らしい。
しかし私はこの原稿を書くに至って、同輩から一つの御題を頂いた、というよりも強制だ。この、情緒のかけらもなく、ロマンチストとは程遠く、女子大生の皮を被ったオヤジとまで噂されている（いや、そんな噂はどこにもない…はず）私に、恋愛について語れというのだ。自由寄稿の依頼に関しては全く異論はなかったが、これについては反論した。だが、私が実際にこれを書いていくあたりどういう結果になったかは一目瞭然だろう。

恋愛…。なんとという不思議な言葉だ。これに関して私が持っている意見は、「恋愛って所詮エゴよ。」という、一部からはヒンシュクもの考えである。だってそうじゃないか。恋愛は優しくなれる…などというのは、私は間違えだと思う。だって、その優しさは自己満足だぞ。相手に好人物と思われたいという下心があるか、はたまた、自分によって、相手が得をする、良い方向に物事を持つていける、というのは自己陶醉だ。相手の幸せを願うというのも、それは自分が好意を持った相手が苦しんで欲しくないだけであって、純粋な優しさとは違うのではないかな。いや、実際優しくなれると思うよ。しかし、その自分に酔っているように

は、本当の優しさとは言えない。そういうものって自分で判断するものではないしね。とにかく、優しくなれるということは否定しないけど、それを自分に当てはまると自覚している人物は、決して優しくなつてなどいないんだな。…と私は思っている。思っているだけ。

というか、恋愛って人によって、価値観が全く違うから実際に議論をすることは難しいよ。誰が正しいというわけでも無い。これが、私の結論。どうせ、人の意見を聞いたところでそれに全て賛同できるわけではないのだから、私は敢えて人の恋愛論を聞いたとはあまり思わないし、好んで話そうとも思わない。こんなことを言うと、「そんな一人よがりの考えでどうする。もつと周りを見て視野を広げろ。」という声が聞こえてきそうだ。いいんだよ。私はこれで、本当に参考になった…という例もあるが、大抵は人と議論しても、反発するだけだと思う。相手がどう考えているか、解るのは大いなる利点だけだね。

話は恋愛とはずれるけど、私の意見を聞きたいというので、一生懸命に話すと、「私はあなたの考えが理解できない。」という人が実際にいる。失礼甚だしい。他人の考えというのは、そう簡単に理解できるものではない。簡単に理解されてたまるか！と思う。というか、そういうことを言うなら、はなから聞くなよ…というのが本音だ。恋愛に関しても然り。相手のことを理解できた気になつていても、それは違うぞ。「私もう、あなたのことが分からぬ。」という人。君は絶対に相手のことを、最初から理解してなかったよ。本当に。

まあ、結局他人のことは簡単に理解できることは出来ないの
で、相手がどういう面を自分に見せても受け止めていくべきだ、とい
うことが言いたいのだ。…なんかだからならなくなった。この件に関
しては、一切の苦情を受け付けませんし、責任も負いません。
……あしからず。



恋愛

恋愛とは

フラれることが負けじゃない

気持ちをとじ込めて

しまうコトが負けなんだ

良くも悪くも

そこで終わってしまふ

同じ失敗をするな

途中で放棄するな

負けるな

そこに道はある

人文学部 文化学科 一年 川原敦志

年間行事

追出しコンバ

人文学部 日本語日本学科 三年 荻原 裕子

当日の天候も良くなく、前日が雨だったということもあり、かなり寒い中、追出しコンバは始まりました。星チームと月チームのマークを各々けて頂き、(今、幹事と副幹事の引き出しに貼ってあるヤツ)かなりかわいらしくなった先輩方と一緒に、バスケットボールや、私達が一生懸命考えたオリジナルのゲームをして遊びました。

そして夜の部です。最後の一言を頂いている時、本当に先輩方が卒業されてしまうのが、信じられませんでした。

今まで、先輩方の存在がいかに大きく、そして私達を暖かく包み込んで下さっていたかを改めて実感し、そして、とても淋しい気持ちと同時に、これからこの書道部は、私達を中心になって引っ張って行くんだという熱い気持ちが生まれてくるのを感じました。

春季合宿『前進』

法学部 法律学科 三年 石橋幸恵

今年の春季合宿は、討論だけでなく書き込みも行った。春に書き込みを行うのは、初めてであった。この合宿は私にとって、実に学ぶものの多かった合宿であったのではないか。

討論では、昨年よりも、より深く考えられた意見が言えたと思う。

やはり、新学年になった……ということに常に意識していた。二年次の間には色々なことがあり、そのことは私を大きく成長させてくれたと思う。同輩の表情を見ても、明らかに昨年よりも頼もしいものであった。経験をするということは、とても良い事だと思う。いいことにしろ、悪いことにしろ……。先輩方は、その経験を討論で語って下さった。これから、部を、新しい一年生と共に頑張っていこうという、暖かい思いがひしひしと感じられたし、話の内容はとても参考になった。人数的に少なかったのだが、活動は濃いものだったと思う。

書き込みについては、連盟展を意識して行った。新しい法帖に取り組んだのだが、どうも自分に合わないらしく、作品づくりがいつもに増して困難なものとなった。大原先生も指導に来て頂いて、充実した練習ができたのではないかと思う。学内でなく、合宿など、外部に出て行う練習は、普段とは違う環境の為か、はたまた、部員の皆と寝食をともにしているせいかな、非常に新鮮な感じがしてよいものだ。やはり、環境を変えての練習は必要だし、夏季合宿後は、技術上達が実感できるのも、こういう効果のせいではないだろうか、と思う。

春季合宿は、新しい期待と不安の相反する気持ちがあつて、参加する前は複雑な心境であるが、合宿後はその不安もなくなり、実に清々しい気持ちで、新しい学期へのやる気が出てくる。楽しいだけではないというところが、いい。

新入生歓迎会

経済学部 産業経済学科 一年 木下崇

夏の気配を感じさせる陽射しの5月9日土曜日、福大のグラウンドで新入生歓迎会が始まった。先ず全部員を二つに分けて、班対抗でゲームが進んでいく、というものだったが、班分けの途中の遅刻者の罰ゲーム等で一回生（僕の）緊張は大分ほぐれていました。ちなみに僕の班は、チーム名「中島S」というチーム名で班にはその名の通り中島先輩、そして過能先輩や佐田先輩、槻木や三好が（たしか）いました。昼の部であるれ区レションは午前中から夕方まであり、いくつものゲームをこなした。バレーはやる機会があるからいいが、「たたいてかぶってじゃんけんぽん」はほとんど初めてしたので、かなり弱かったです。意外な人が結構強かったりしてとてもびつくり。頭脳系のゲームもありましたけど、それはもう「木下におまかせ」って感じでした。昼食は、一回生がおにぎり、二、三回生の先輩がおかずを持ち寄って、みんなで輪になって食べました。おにぎりの定番の梅が食べられない僕は、おにぎりを選ぶ時、かなりの勘を發揮して梅以外を食べませんでした。

ゲームの話しに戻りますが、ゲームの最後に選ばれる、一回生のMVPは取れませんでした。やはり僕のような目立たないおとなしい人間には無理かなと思いました。そして何故かゲーム中松下が何もしてないのに「松下ちゃんとしろー。」って言われてました。たしかにいつでもやる気なさそうですけどね。夜の部は「高砂」というお店で青木部長や沢山のOBの先輩に、自己紹介をして一緒に御飯を食べました。っていうか飲まされました。そこで青木部長とこれからの外国語の話しをかなり話し込みました。先輩達とも沢山お話しさせて頂きました。つがれたお酒は全て飲みましたが、タバコを吸っているOBの先輩から「吸う？」と言われた時は、そこは18歳ですからお断りしました。新入生歓迎会を通して一回生はかなり日焼けしましたが、先輩方は「いままでの経験から今日も長そで。」それなら最初から教えて下さいよ。来年は一回生にきちんと教えるぞ、とか言いながら多分一回生やし日焼けしてもいいだろうとか言って教えます。



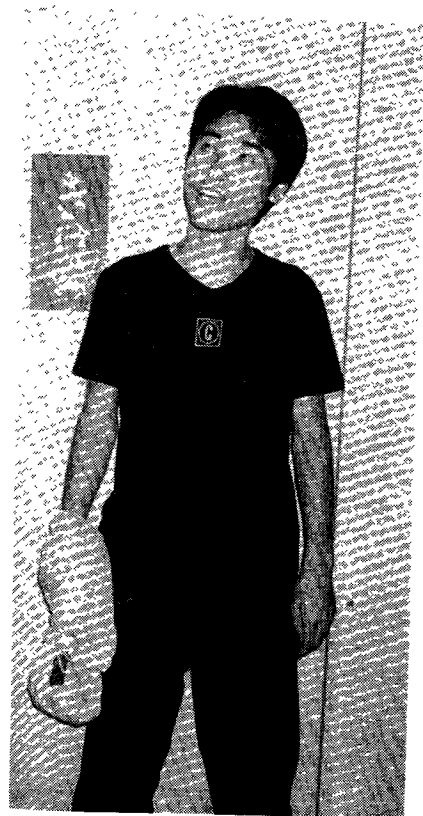
夏季合宿「孜孜」

経済学部 経済学科 三年 大場智子
我が部のメイン行事の夏季合宿は、今年はテーマ「孜孜」のもと、少年自然の家玄海の家で行われました。

「孜孜」とは、何事にも挑戦し、最後までやり遂げるという意味です。合宿の中心である書道練習は、福岡大学学園祭である七隈祭で展示する作品作りを課題とし、参加した部員は筋肉痛に苦しみながらも、意欲があふれる作品ができたと思います。例年ですと七隈祭の作品作りの足がかりを夏季合宿で行っておりましたが、今年は作品を作り上げるということで、例年にもまして集中した練習でした。また、大原先生が忙しい中一泊二日指導にあたってくださり、適切なアドバイスを受けることができ、部員一人一人が目指した作品により近づく事ができました。満床先輩、松本先輩もわざわざ指導にお越しく下さり、練習により活気が漲りました。

この合宿で特に一回生の成長ぶりには驚きました。書道の面では、一日一日目覚しく上達し、それぞれの感情が作品からも伝わってきました。初日は遠慮をして上級生に自ら聞きに行くことができなかった一回生が、日を追うことに自ら聞きに行き、一回生同士で批評会をするをほどでした。生活面では、慣れない集団生活で初めは何をしているのか分からず、上級生の指示なしでは行動できませんでしたが、自分で考えそして一回生同士で考え、失敗を恐れず行動する姿は、私達役員もうれしく思うと同時に、初心に帰ることができ一回生から学ばせてもらいました。

今年、茶話会の他に浜辺での花火を計画しました。これはもつと部員全員で遊ぶ時間をつくることによって、明日への練習の励みになることが狙いでした。しかし、風が強く火が付きませんでした。そこで、レクレーションを浜辺で行うことになり、ルールを説明しましたが、説明が悪く違うゲームになってしまい、私が海に投げ出され、次いで四回生先輩方が次々に海へ投げ出されてしまいました。先輩方の楽しい思い出にしていただけなみたいなので、体張ったかきがありました。私個人、四回生の先輩方には本当にお世話になりました。最後の合宿を作ることができ本当にうれしく思いました。



心に帰ることができ一回生から学ばせてもらいました。

福岡大学書道部展「光陰の彩」

工学部 電子工学科 三年 山根 芳子

後期が始まり、少ししてから部展に向けての強化練習が始まりました。部員は、一年生は残念ながら経験できなかった連盟展、学術文化発表週間に於ける学内展、七隈祭等の展示会をこなしてきました。これらの展示会ごとに吸収してきた書技、日頃の練習で先輩方から御指導頂いた書技を充分に發揮して作品作りを進めてきました。

強化練習中の時間の経ち方はとても早く感じられました。また、講師練習日では、大原先生の御指導にもいつも以上に力が入っておられました。その御指導に答えるべく、部員は熱心に練習を続けました。作品の締切日に大原先生に作品を選考して頂きましたが、

「まだまだ上手く書ける。」

との叱咤激励の言葉を頂き、そして再び練習し、各自、現時点で最高の作品を出展しました。

十一月三十日、福岡県立美術館一階彫刻室に搬入を行いました。自分達が一生懸命書いた作品が、額に入った状態で次々と搬入されてきたのを見て、とても嬉しく思いました。また、OBの方々の作品は現役と違いカラフルで迫力があり、流石だと感じました。搬入が全て終わった後、バラエティーにとんだ様々な作品が展示されており、自分達の福大書道部の展示会だ、と感じると同時に、一年間部員と共に歩んできたことを思い出しました。

十二月一日から六日まで、六日間の展示会は自分達で受付を行い、また、沢山の一般の方々に作品を見て頂くことができ、無事に終了することができました。部員は福岡県立美術館という公の場で部展を開催できたことを誇りに思っています。また、これに満足することなく、より良い部展が開催できるよう日頃から努力して頂きたいです。

最後に、福岡大学書道部展「光陰の彩」を開催するにあたり多大なるご尽力を賜りました関係者各位に厚く御礼申し上げます。



規約

福岡大学学術文化部会書道部

第一章 名称及び目的

第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。

第二条 本部は部員相互の親睦融和を図り、人間形成をめざすと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。

第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行う。

- 一、書道に関する事業
- 一、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行
- 一、関係団体との親睦並びに連絡提携
- 一、各種展示会出品
- 一、その他前条目的達成のため必要と認めたる事業

第二章 組織

第四条 本部は講師及び部長を各一名置く。

第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。

第六条 本部は次の機関を置く。

- 一、役員会
- 一、部員総会
- 一、OB会、但しOB会規約は別に定める。

第三章 役員会

第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。

第八条

本会は原則として、第五条に基づく役員によって構成される。但し、第五条に基づく役員以外であっても幹事が認められた場合には、本会に出席することが出来るが議決権はないものとする。

第九条

本会は幹事によって召集され代表される。

第十条

本会は毎月一回開くことを原則とする。

第十一条

本会の議決は部員総会の決定を妨げるものではない。

第四章 部員総会

第十二条

本会は本部の最高議決機関である。

第十三条

本会は本部の部員によりこれを構成する。

第十四条

本会は必要に応じこれを開き、幹事がこれを兼務する。

第十五条

本会の議長は原則として、幹事がこれを兼任する。

第十六条

一、本会は部員の過半数をもって成立する。

一、本会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三部の二以上の賛成を必要とする。

第十七条

本会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成をもって仮議決することが出来る。但し、

一、仮議決については事後部員総会において過半数の承認を必要とする。

一、重要事項は仮議決することが出来ない。

第五章 役員

第十八条 役員構成は第五条に同じ。
第十九条 第三条に基づき、外部関係諸団体へ役員を派遣することが出来る。

第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。

第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行う。但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異なっても良いものとする。

第二十二条 本部の役員の任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。但し役員改選後、翌年三月三十一日まででは代行期間とし、その責任は新旧両役員の連帯責任とする。尚、欠員が生じた場合これを補充する。

第二十三条 役員改選は原則として十月に行う。

第六章 役員の仕事

第二十四条 役員の仕事は次の通りである。

- 一、幹事は部務を処理し、部を統括する。又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と部全体に負う。
- 一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。
- 一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する收支の記録決算書を作成。
- 一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそって諸活動を企画する。
- 一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行い、資料の収集保管をなし、機関誌の発行を行う。但し機関誌の発行は年一回とする。
- 一、第五条第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

第七章 会計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費その他の所定納入金については、前年度末に部会において決定しなければならない。

第二十七条 会計報告は会計が行う。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

- 一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。
- 一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。
- 一、本部における選挙権、被選挙権を有する。
- 一、本部の備品及び図書を利用すること。
- 一、部員は次の義務を負う。
 - 一、部員は部員総会に出席すること。
 - 一、但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。
 - 一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。
 - 一、本部の規約に従うこと。

第九章 入部、退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金の納入をもって部員とする。

第三十一条 部の退部は書面をもって幹事に願い出て、役員会の承認を得、部員に通達する。但し退部を希望する者は、その在籍期間までの所定納入金を完納すること。

第十章 罰 則

第三十二條 書道を研究する熱意なく本部の名誉を汚したる者、部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者、又、部の秩序を乱す者は部より除名する。但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。

第十一章 規約改正

第三十三條 本規約改正の発議は部員総会において部員の四部の一以上の同意により総会の議決を経て行われる。尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要としその出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

第十二章 附 則

一、本規約は昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

福岡大学書道部書心会
(規約)

第一章 総 則

第一條 本会は福岡大学書道部書心会と称する。
第二條 本会は支部を置くことができる。
第三條 本会は支部を置くことかてきる。

第二章 目的及び事業

第四條 本会は會員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡の後援を行い、もつて前條の振興に貢献することを目的とする。
第五條 書道の振興に關する為の事業を行う。
第六條 書道に關する研究、機誌等の刊行、書道に關するの爲の連絡提携の刊行、書道に關するの爲の必要と認めたる事業、その他前條の目的達成の爲の必要と認めたる事業

第三章 組 織

第六條 本会正會員は福岡大学書道部員として登録する者な
第七條 本会に、總會、評議委員会、及び事務局を置く。

第四章 役 員

第八條 本会は次の各号の役員を置く。
一、 会長(一名)
二、 副会長(一名)
三、 評議委員長(一名)
四、 評議委員(三名)
五、 事務局長(一名)として各代一名とする
六、 事務局次長(一名)
七、 監査委員(一名)

第九條 本会は次の職務を行う。且つこれを代表する時は、

第二十二條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

一、副会長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。

第二十三條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

一、事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。事務局長は、事務局長を補佐し、且つこれを代表する。

第二十四條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

一、評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。

第二十五條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

一、評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。

第二十六條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

一、評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。

第二十七條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

一、評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。

第二十八條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

一、評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。評議委員長の職務を代行し、且つこれを代表する。

第二十九條 本会の執行機関として、本事務局を置く。事務局長を選任する。毎一年一月一日より始まり、十二月三十一日までに

ぼけ八 本店

福岡市城南区友丘2丁目2-2

☎092-801-7763

party 60名までOK

申揚げ処

ぼけ八



福岡市城南区1丁目35-21

ハピネスM1階

☎092-845-3028

たばこ・食品・日用品

福大前メイン・ショップ

城南区片江5丁目45番15号

TEL 092-861-1577

中ノ子博多人形

書道用品専門・額

松花堂

〒810-0001

中央区天神2丁目7-12

西鉄グランドホテル東口前（天神吉富ビル4階）

☎092-714-0279

書道用具専門店

雲峯堂

〒810 福岡市中央区天神1丁目1-1

アクロス福岡B1

電話 (092) 725-1101(代)

FAX (092) 725-6924

SINCE 1501・室町文龜元年創業

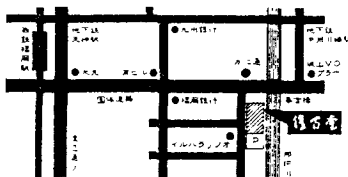


平助筆 復古堂

〒810 福岡市中央区春吉3-3-9

TEL 092-761-5122代

FAX 092-761-8367

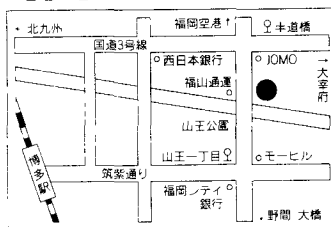


- アトリエメニュー
書画用筆墨硯紙・香色紙・短冊・料紙
和文具・書籍
額・表装・貸額
搬入出引受
赤ちゃん筆、御用命承ります

—— 駐車場完備 ——
大丸デパートより徒歩5分



福岡店



書道用品と表装は

アメミヤとお決め下さい!

書道専科! 安さご満悦を!

福岡市博多区半道橋1-1-5 (毎週火曜定休) ☎092-451-2127

美術表装・ギャラリー

晚香堂

☎ 092 (741) 0897

- 営業時間
平日 午前10時～午後6時30分
日祭日 午前12時～午後6時

〒810 福岡市中央区大濠1丁目3-5 サンリッチ大濠1F
(福岡气象台ヨコ)

駐車場有り

悪太郎

〒814-0141
城南区西片江1-6-8
☎(092)-863-1695

焼き鳥、ラーメン等

オール 500円

“当店おすすめ” たべてんじや!!

鉄尖丼・ゆくら丼・ゆくら鉄尖丼

門松本家 **ザ・どんぶり屋**

福大前 ☎864・5553 香椎店 ☎682・1695

(学生情報&イベント企画) 092-862-9888

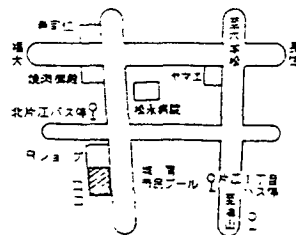
学生サービスセンター・会員募集

アルバイト情報、格安コピー (6円)、各種サービスなど

福岡市城南区片江5-46-23-2F (福大前バス停・ローソン2F)
住友ビザカード・国際交流パーティ・学生起業家応援・海外留学

国家検定フラワー装飾1級技師の店

- 🌸 花束
- 🌸 アレンジメント
- 🌸 ブーケ・コサージュ
- 🌸 慶弔用スタンド装花等
- 🌸 会場装花



優しさを届けますお気軽にお電話ください

片江1丁目7-4 (城南市民プール裏)